

2012年10月11日

天塩川流域市町村議会
議員各位様

下川自然を考える会 会長 千葉永二
サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
一般社団法人北海道自然保護協会 会長 佐藤謙

改めてサンルダム事業の再検証を望みます

謹啓

朝夕の気温は10℃前後までさがり、めっきり秋らしくなりました。議員各位様にはそれぞれ市町村の円滑な運営のため努力されていることに敬意を表します。

さて、ご承知のように、9月25日に北海道開発局長は、検討の場の審議を経て、学識経験者や流域内外の意見を聴取したとして、サンルダム事業の継続決定を国土交通省に届けました。今後は国土交通省内で検討されることになりました。私たちは、以下に述べるように、ダムに批判的意見についてほとんど耳を傾けない開発局の対応が大きな問題であるとして、サンルダム事業の再検証を求める要望書を、別紙のように国土交通大臣および北海道開発局長へ提出しました。

1998年(平成10年)12月に北海道開発局(旭川・留萌開発建設部)は、流域全世帯に「今後の川づくりのためのアンケートのお願い」を実施しました。それは、1993年に行われましたが、サンルダム建設事業着手の5年後になります。

その結果「天塩川の治水について、洪水・土砂災害に対し、安全だと思いませんか」との問いに、「安全だと思ふ・ある程度安全だと思ふ」との回答が89%でした。また、洪水対策として具体的に進めてほしいことでは、「河岸保護工37%、堤防の完成25%、内水対策16%、河道の掘削15%、ダムの整備7%」でした。このダムの整備を求めた中には、サンルダム建設を推進した天塩川治水促進期成会があり、さらに地元下川町・名寄市民の思いが含まれてのことです。もちろん建設地周辺の建設業者が期待希望しての数値も含むと考えられます。しかし、ダムの整備を求めた声はわずか7%だったのです。このように、ダムに対する要望が少ないことについて、私たちは開発局が戦後行ってきた河川改修によって水害が大きく減少してきたためであると考えています。

この間の経過を見ると、天塩川流域各首長はサンルダム建設が必要という立場にたっておられます。私たちは、実際に水害の危険性がある場については、もちろんダムなり河川改修を行なうべきと考えています。しかし、天塩川流域委員会以降、開発局は具体的な浸

水危険域を示すことなく、流域委員も現地視察を一度も行わず、サンルダム案がベターと述べてきました。

私たちは、開発局が求めたパブリックコメントに二度にわたって意見を提出してきました。それに対して、別紙資料に示すように、きちんとした回答がありませんでした。その原因は、検討の場において、ダムに批判的意見をもつものが皆無であったことと、開発局が私たちとの意見交換を徹頭徹尾拒否してきたことにあります。

さまざまな意見を具体的に検討してはじめてよりよい案が作られますが、サンルダム事業についてはそのようなことが行なわれなかったのは極めて残念です。

議会議員各位様には、もう一度、住民の立場にたって、それぞれの治水対策について再検討されることを望みます。天塩川水系河川整備計画ではダム建設を優先しており、現実に住民が困っている内水・外水氾濫対策が見落とされています。参議院でそのことに関する質問趣意書が出されても国交省（開発局）はその対策を実施しようとしません。具体的な対策は、下川町名寄川頭首工右岸の外水氾濫に対する築堤や、音威子府村箴島の内水氾濫対策などです。これらの内水・外水氾濫の問題は、サンルダム建設によっては解決できません。

国家財政の厳しさは今後も続くと考えられます。有識者会議の求めた「ダムによらない治水対策」について、住民からの提案も含め、具体的に調査・検討し、無駄の少ない効果的な治水対策が提案され、国家・国民や住民にとって納得のできる、天塩川河川整備計画が作られることが必要です。そのために、サンルダム計画について再検証を求めている私たちの考えをご検討いただくようお願いいたします。

謹白

同封したもの

- 1 国土交通大臣宛て要望書
- 2 北海道開発局長宛て要望書
- 3 資料1 別紙：批判的意見に耳を傾けない開発局の回答について
- 4 資料2 民主的な良識あるサンルダム建設の再検証を求める

ご質問などあれば、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465 Fax:011-211-8465）にご連絡ください。